

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520113

研究課題名(和文) 上方浮世絵展企画に向けての国内外所蔵調査と作品の基礎的研究

研究課題名(英文) Research into Kamigata Ukiyo-e in museums of the world for an exhibition

研究代表者

北川 博子 (Kitagawa, Hiroko)

関西大学・博物館・非常勤研究員

研究者番号：30425061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：上方浮世絵は世界的には評価が高い芸術でありながら、日本国内の認知度は決して高くなかった。本研究では国内外の博物館・美術館では上方浮世絵の所蔵調査を、それと並行して作品の基礎的研究を行ってきた。

こうした本研究の活動が認められて、NHKプラネット近畿株式会社から、上方浮世絵の展覧会の監修を依頼されたのである。そして、本研究の集大成として展覧会「上方の浮世絵 大坂・京都の粋と技」(2014年4月19日～6月1日 大阪歴史博物館、9月9日～10月13日 山口県立萩美術館・浦上記念館巡回)が開催されることとなった。

研究成果の概要(英文)：Kamigata Ukiyo-e is very famous art in the world, however surprisingly few people know them in Japan. I researched into Kamigata Ukiyo-e in museums of the world.

NHK PlanNet, INC. requested me to supervise an exhibition of Kamigata Ukiyo-e. So the exhibition "Ukiyo-e the Kamigata Area: The Sophistication of Osaka and Kyoto Artists" (April 19-June 1, 2014 Osaka Museum of History / September 9-October 13, 2014 Yamaguchi Prefectural Hagi Uragami Museum) was curated by me.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：芸術諸学 美術史 浮世絵 近世上方文化

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 上方浮世絵研究の現状と課題

江戸浮世絵には、役者絵の勝川春章や東洲斎写楽、美人画の鈴木春信や喜多川歌麿、風景画の葛飾北斎や歌川広重など国際的に有名な絵師が多い。従って、世界的規模の展覧会が毎年のように開催され、美術史の方面からは研究書や啓蒙書の発行が相次いでいた。

一方、上方については系統だった研究が立ち後れているのが現状であった。1929年の黒田源次氏著『上方絵一覽』は絵師と作品のリストアップに留まっており、昭和40年代以降の松平進氏の登場まで研究史に空白期間が生じていたのである。松平氏は主として役者絵からアプローチを進め、没する直前に、1999年『上方浮世絵の再発見』と2000年『上方浮世絵の世界』の著作にまとめ、その啓蒙に努めた。また、松平進氏と研究代表者北川博子が上方役者絵の所蔵図録の刊行を相次いで手がけたことにより、各所蔵機関の収蔵状況が徐々に明らかになっていった。

松平進氏没後の上方浮世絵研究は、研究代表者が中心となって進めている状況であったが、欧米では以前から研究者や愛好者が多い分野で図録もかなり発行されていた。そして、2005年にはロンドン大学 SOAS のアンドリュース・ガーストル氏の企画により、大英博物館において「Kabuki Heroes on the Osaka stage 1780-1830」展が開催され、日本でも「日英交流 大坂歌舞伎展 上方役者と都市文化」として大阪歴史博物館・早稲田大学演劇博物館を巡回したのである。この展覧会に研究代表者は準備段階から協力し、図録執筆や国際研究会での口頭発表を行った。

このような世界的機運のもと、研究代表者は「どの上方役者絵がどこの美術館・博物館に所蔵されているのか」を明らかにする必要性を感じ、平成18～20年度の基盤研究(C)「上方役者絵の国内外所蔵調査とデータベース化の基礎的研究」において、アメリカと日本国内の美術館・博物館で上方役者絵の所蔵調査を行い、継続的にデータベースの構築に努めていたのであった。

### (2) 上方浮世絵の国内外所蔵調査の必要性

前回の基盤研究(C)で所蔵調査を重ねるにつれ、役者絵だけではなく上方浮世絵全体にわたる調査の必要性を痛感するようになっていった。その直接的な契機は、2006年8月に行ったアメリカのボストン美術館での調査である。ボストン美術館には、約2,400枚の上方浮世絵が所蔵されている。もちろん役者絵の比率は高いが、約500枚は風景画や美人画、その他である。この成果は「ボストン美術館所蔵上方絵目録」(『関西大学 なにわ・大阪文化遺産学 研究センター 2006』収録)として発表、この実績によりボストン美術館と日本人研究者によって進められている浮世絵プロジェクトに加わることもできた。

さらに、2009年に和泉市久保惣記念美術館へ寄贈された上方浮世絵について、「上方浮世絵の歴史と新収コレクションの意義」(『久保恒彦父子コレクション 第二期 浮世絵版画 上方絵編』2009年、和泉市久保惣記念美術館刊)を著したが、本美術館は2004年と今回の寄贈を合わせ上方浮世絵の所蔵数が2,000枚を超えた。しかも、役者絵の比率が高い上方浮世絵としては、それ以外の分野の浮世絵が550枚以上あることは特筆すべきことであった。このように新たな情報が寄せられるにつれ、更なる調査研究の必要性を感じていったのである。

近年の浮世絵研究の動向からみても、これまで行ってきた研究方法を継続して、国内外の美術館・博物館で所蔵調査を行い、その上で作品研究を行うことが必要不可欠であると考えるようになっていった。

### (3) 「上方浮世絵展」の企画

前回の基盤研究(C)では、上方役者絵の専門知識を持ち合わせていない学芸員のため、調査結果をできるだけ迅速に所蔵機関に報告することを心がけた。そして、各機関における館長や学芸員との意見・情報交換の場では、研究者が少なく一般的にも馴染みの薄い上方浮世絵の知名度を上げるためには「上方浮世絵展」開催が必要ではないか、との意見がかなり多く寄せられた。

このように、国内外を問わず数多くの学芸員は、浮世絵の普及・研究にとって展覧会開催が有効な手段であることを認識していた。なぜならば、江戸浮世絵の研究が進んだ一因は、大小規模の様々な展示が頻繁に行われ、その折には研究成果を集大成した図録が発行されるからである。なお、上方浮世絵についても、1975年に日本経済新聞社主催の「上方浮世絵200年展」が神戸と東京で開催された。上方浮世絵全体にわたる日本初の展覧会としての意義は大きい。今日浮世絵研究全体が大幅に進み、図録の図版・解説の質向上は隔世の感がある。また、先に触れた2005年の「大坂歌舞伎展」は、1780年から1830年という限定期間の歌舞伎界がテーマであったため、上方浮世絵全体の展覧会開催が切に望まれるところであった。

さて、研究代表者は上方役者絵の収蔵数世界一を誇る財団法人阪急学園池田文庫(現・阪急文化財団)の研究員を務め、現在まで様々な展覧会を企画してきた。また、2009年4月に関西大学図書館で開催された「長谷川貞信～大阪の浮世絵師～」展の目録作成にも協力を行った。それらのノウハウを生かして、まずは小規模展示を試みながら、世界中からの出品を視野に入れた「上方浮世絵展」の企画を練っていくことを目指すつもりであった。人材の乏しい上方浮世絵界ではあるが、美術館・博物館への実地調査と作品研究によって、確実にネットワーク作りがなされてきていることを、これまでの研究で実感してい

たからである。

#### (4) 地域文化としての上方浮世絵

上方浮世絵が等閑視されてきた原因の一つは、東京への政治・経済・文化の一極集中が起こり、関西が一地方と認識されているからでもあった。本研究は関西大学博物館との連携を図りながら、「地域の特性」という観点からも研究を行う予定であった。関西大学は学部・大学院はもとより、附属する博物館においても大阪の地域文化を取り上げた研究を行い、一般人に向けての様々な企画を行ってきた実績があったからである。また、関西大学図書館は大阪関係の書籍や資料が豊富に所蔵されている。それらを利用しながら、地域文化として上方浮世絵を取り上げる予定であった。その場合、江戸との対比だけではなく、大坂と京都の区別をしながら研究を進めることが必要であると考えていた。

#### (5) 上方浮世絵データベースの作成と公開

ボストン美術館での上方浮世絵全体にわたる調査をまとめるに当たり、新しくデータベースの枠組みを作成した。その項目は「所蔵、所蔵 No、種類、判型・摺・続枚数、続き方、版元、落款、絵師、摺師・彫師、画中文字、上演・版行年月、劇場、外題・作品名、役名・役者名・人物名、作品解説、備考」である。本研究では、調査・研究対象を上方浮世絵全体に広げて、この新項目でデータベースを成長させ、最終的には研究成果として公開する予定であった。もちろん、このデータベースは新たな調査対象が加わることによって成長し続けるものと考えていた。

上方浮世絵については海外の美術館・博物館からも大きな関心が寄せられていた。従って、このデータベースは美術館・博物館の企画展示や書籍の発行にも寄与できると考えていた。

## 2. 研究の目的

浮世絵は世界に誇るべき日本独自の文化であるが、版行された土地によって「江戸絵」と「上方絵」に分けられることは意外に知られていない。知名度の低い上方浮世絵ではあるが、世界的な「上方浮世絵展」を開催することによって、その存在と意義を広く世に知らしめることを目的とした。その企画準備のため、国内外の美術館・博物館の収蔵品調査を行い、上方浮世絵所蔵データベースを構築していった。このデータベースにより上方浮世絵の様相を明らかにするのはもちろんのこと、個々の作品についても考察を進め、江戸に比べ研究が立ち後れている上方浮世絵の総合的研究を行った。

## 3. 研究の方法

研究的かつ啓蒙的な上方浮世絵展の企画に向けて調査・研究を行うには、「どの作品がどこの美術館・博物館に収蔵されているか」

また、「それらの作品の保存状態はどうか」、さらには、「その作品の意義はどこにあるのか」等を明らかにすることが重要である。そのため、次の4点を基本に研究を進めた。

- (1) 図録や Web サイトなど、二次資料からのデータ入力
- (2) 国内外の博物館・美術館への実地調査
- (3) 作品研究
- (4) 浮世絵の研究者や美術館・博物館の学芸員との意見交換

## 4. 研究成果

以下の(1)と(2) ~ の結果によって国内外の博物館・美術館と研究者から、上方浮世絵の芸術性について評価を得ることができた。その結果、(2)の開催する運びとなった。この展覧会も一般、研究者に高く評価され、上方浮世絵を広く世間に知らしめることができ、更なる上方浮世絵展開催の可能性を示唆するものとなっている。

### (1) 実地調査

国内：関西大学図書館、大阪府立中之島図書館、大阪歴史博物館、たばこと塩の博物館、熊本県立美術館、兵庫県立歴史博物館、千葉市美術館、神奈川県立歴史博物館、早稲田大学演劇博物館、京都府京都文化博物館、京都府立総合資料館、神戸市立博物館  
国外：ライデン民族博物館、ベルギー王立美術歴史博物館

### (2) 浮世絵展の企画・開催への協力

「市川亀治郎コレクション役者絵展」(2010年6月12日~14日 学習院大学史料館)  
学会企画委員の一員として、展示の準備から実際の作業までを担当。

「役者に首っだけ！~役者絵を楽しむツボ~」(2010年3月5日~4月17日 たばこと塩の博物館)

上方役者絵についての専門的知識の供与。

「上方舞・山村流」(2011年4月6日~5月23日 大阪歴史博物館)

上方役者絵についての専門的知識の供与。

「特別展 写楽」(2011年5月1日~6月12日 東京国立博物館)

流光齋作品の選定への助言。

「北斎 風景・美人・奇想」(2012年10月30日~12月9日 大阪市立美術館)

学芸員の秋田達也氏の関西大学図書館と阪急文化財団の調査に同行。図録へ「北斎の大坂の弟子たち」を寄稿し、講演会「北斎と上方浮世絵世界」の講師を務めた。

「大浮世絵展」(2014年1月2日~3月2日 江戸東京博物館、3月11日~5月6日 名古屋市博物館、5月16日~7月13日 山口県立美術館)

企画委員として、作品選定、出品交渉、図録の作品解説執筆を担当。

「関西大学名品万華鏡 館選イチョシ！」(2014年4月1日~5月18日)

上方浮世絵師、初代長谷川貞信の作品解説に

ついでに助言。

「上方の浮世絵 大坂・京都の粋と技」  
(2014年4月19日~6月1日 大阪歴史博物館、9月9日~10月13日 山口県立萩美術館・浦上記念館)

監修者として、作品の実地調査、作品選定、出品交渉、図録の論考・章扉・作品解説の執筆を担当。

なお、本展は1975年の「上方浮世絵 200年展」以来約40年ぶりの展覧会で、今回の基盤研究(C)の集大成であるため、以下詳細に述べておきたい。

・出品作品数 213点

・借用先

【公共機関】

尼崎市教育委員会

和泉市久保惣記念美術館

大阪城天守閣

大阪市立住まいのミュージアム

(大阪くらしの今昔館)

大阪府立大学学術情報センター図書館

関西大学図書館

京都府立京都文化博物館

京都府立総合資料館

熊本県立美術館

甲南女子大学図書館

神戸市立博物館

園田学園女子大学近松研究所

千葉市美術館

奈良県立美術館

武庫川女子大学附属図書館

阪急文化財団池田文庫

兵庫県立歴史博物館

【個人】

十母文庫

山村流六世宗家 山村若

北川博子

(北川所蔵の多くは、前回と今回の基盤研究(C)の研究費で購入したもの)

・図録の構成

論考

眠りから覚めた上方浮世絵 北川博子

第1章 上方浮世絵の誕生と展開

第2章 歌舞伎華舞台

第3章 大坂・京都美人競べ

第4章 上方名所案内

第5章 浮世絵で遊ぶ

第6章 肉筆名品選

作品解説

(213点中188作品の解説を北川が執筆)

上方浮世絵関連略年表

上方絵師解説

出品目録

主要参考文献等一覧

List of Works

Kamigata Ukiyo-e Awaken from Sleep

Hiroko Kitagawa

Foreword

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

北川 博子、流光斎の肉筆扇面をめぐって、阪急文化研究年報、査読無、第2号、2013 pp.39-44

北川 博子、流光斎肉筆役者絵『狂言尽図巻』考、千葉市美術館紀要 採蓮、査読無、第16号、2013、pp.19-29

北川 博子、上方浮世絵における「中判」の意義、浮世絵芸術、査読有、第165号、2013、pp.5-18

北川 博子、摺物様式の役者絵、阪急文化研究年報、査読無、第1号、2012、pp.3-12

北川 博子、『月氷奇縁』の画工、近世文藝、査読有、第96号、2012、pp.27-38

北川 博子、大坂のねりもの、阡陵、査読無、No.63、2011、pp.6-7

北川 博子、再発見『流光斎遺稿』、浮世絵芸術、査読有、第162号、2011、pp.34-48

北川 博子、加藤家文書にみる咄家の流行唄、大阪商業大学商業史博物館紀要、査読無、第11号、2010、pp.67-75

[学会発表](計6件)

北川 博子、制作・販売から見た上方浮世絵の一側面、国際浮世絵学会春季大会(招聘講演)、2013年6月2日、学習院大学(東京)

北川 博子、『花陽百人一首大成』小考付・関西大学図書館所蔵西川祐信絵入版本について、絵入本学会、2012年12月9日、関西大学(大阪)

北川 博子、『月氷奇縁』の画工、日本近世文学学会秋季大会、2011年10月1日、高麗大学校(大韓民国)

北川 博子、流光斎画の版本をめぐる諸問題 付・再発見『流光斎遺稿』との関わり、絵入本ワークショップ、2010年12月4日、大和文華館(奈良)

北川 博子、八文字屋本『陳扮漢』と浄瑠璃・歌舞伎、演劇研究会、2010年9月25日、同志社大学(京都)

北川 博子、上方における美人画の系譜 和泉市久保惣記念美術館所蔵品を中心に、国際浮世絵学会第76回研究会、2010年7月17日、和泉市久保惣記念美術館(大阪)

[図書](計3件)

北川 博子(監修)、NHKプラネット近畿、上方の浮世絵 大坂・京都の粋と技、2014、260頁

北川 博子、立命館大学文学部編、図書出版文理閣、日本文化の源流を求めて4、2012、pp.97-114

北川 博子、上方歌舞伎と浮世絵、清文堂出版株式会社、2011、428頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

北川 博子 (KITAGAWA, Hiroko)  
関西大学・博物館・非常勤研究員  
研究者番号：30425061

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし